

第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人帯広畜産大学

1 全体評価

帯広畜産大学の基本的な目標は、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝地域において、生命、食料、環境をテーマに「農学」「畜産科学」「獣医学」に関する教育研究を推進し、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じて地域及び国際社会に貢献することである。第3期中期目標期間においては、獣医学分野と農畜産学分野を融合した教育研究体制、国際通用力を持つ教育課程及び食の安全確保のための教育システムを保有する我が国唯一の国立農学系単科大学として、グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成することを目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	顕著な成果	上回る成果	達成	おおむね達成	不十分	重大な改善
教育研究						
教育		○				
研究		○				
社会連携		○				
その他		○				
業務運営			○			
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務			○			

（教育研究等の質の向上）

国際安全衛生教育の重要性に鑑み、大学内に国際基準適応の実習施設群を構築するため、第2期中期目標期間終了時点において国際規格取得施設が1施設のみであったものを、第3期中期目標期間の4年間で5施設に増加させており、本実習施設群において、企業等の国際標準規格の取得・維持に対応できる人材育成を図っている。また、原虫病研究センターは、世界の約170か国が加盟して動物衛生の向上等を目指す政府間機関である国際獣疫事務局 (OIE) のコラボレイティングセンターとして、国際疫学調査、検査・診断を実施し、診断用スライドを海外に提供している。

一方で、「研究に関する目標」の項目1事項について、「中期計画を十分に実施しているとはいえない」ことから、改善に向けた取組が求められる。

（業務運営・財務内容等）

北海道大学との共同獣医学課程においては、欧州獣医学教育認証を取得し、欧米水準での獣医学教育を実施していることに加え、獣医学分野では岐阜大学、農学分野では岩手大学との連合大学院を解消し、コーネル大学・ウィスコンシン大学との教育研究交流を活用

05 帯広畜産大学

し、獣医学分野と農畜産学分野を融合した大学独自の大学院を新たに設置している。獣医・農畜産融合の視点と世界動向・国際基準を踏まえた教育研究体制により、農学の幅広い知識・技術と国際通用力を持つ高度人材育成を推進している。また、令和元年度までに全教員を年俸制に移行するという目標を早期に達成した上で、業績を適切に給与に反映するため、大学独自の教員評価システムである多元的業績評価及び競争的資金獲得額に応じたインセンティブの導入等により、教員評価を実施している。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>

	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善事項
(I) 教育に関する目標		○				
①教育内容及び教育の成果			○			
②教育の実施体制			○			
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標		○				
①研究水準及び研究の成果		○				
②研究実施体制等の整備				○		
(III) 社会連携及び地域に関する 目標		○				
(IV) その他の目標		○				
①グローバル化		○				

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(中項目)4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(教育)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

I-1-(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

05 帯広畜産大学

I-1-(1)-① (小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「アジア初の欧州獣医学教育認証取得」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ アジア初の欧州獣医学教育認証取得

獣医系4大学が一致協力して教育カリキュラム改善、教育の質保証体制の整備等日本の獣医学教育の質の向上に貢献し、アジアで初めてとなる難易度の高い計画「欧州獣医学教育認証の取得」を早期に実現している。(中期計画 I-1-(1)-①-1)

○ 有力米国大学との教育連携

QS世界大学ランキング2020獣医学分野3位の実績を有するコーネル大学(米国)及び同農学分野8位の実績を有するウィスコンシン大学(米国)と組織的な交流関係を構築し、招へい外国人研究者による講義、海外教育プログラムの導入等の大規模な交流により教育課程を充実し、大学のグローバル化を進展させている。(中期計画I-1-(1)-①-4)

(特色ある点)

○ HACCP専門家資格取得者の輩出

農作物・食品等の国境を越えた流通拡大等を背景として企業等に早急に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、大学院における食品安全マネジメント教育プログラムを強化し、HACCP専門家資格取得者を数多く輩出するとともに、同プログラムを大学院の学位プログラムに発展させている。(中期計画 I-1-(1)-①-5)

○ 立地を生かした企業との連携

日本の食料基地に位置して実学を担う特色を生かし、企業等との共同研究に基づく研究テーマを選択する大学院生を増員して中期計画を達成し、産業界等における即戦力人材の育成を図っている。(中期計画 I-1-(1)-①-6)

I-1-(1)-② (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

I-1-(1)-③ (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ アセスメント・テストを用いた学修成果の可視化

平成29年度からIRコンソーシアムに加入し、会員大学間でのデータ比較による各種指標の客観性の向上や、会員大学との連携によるアセスメント・テストの改良及び導入によって、より発展的にジェネリックスキルと専門知識の両面から学修成果を可視化する取組を進めている。(中期計画 I-1-(1)-③)

I-1-(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

I-1-(2)-④ (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症対応のためのオンライン授業実施に先立ち、全学生の授業受信環境を調査し、脆弱な通信環境の学生に対してはWi-Fiルーター・パソコンの送付や学内における自学習エリアの確保によって、三密回避の環境下において授業受信を許可する措置を講じている。さらに、学生寮を含めた全学のネットワーク環境を整備するとともに、オンライン授業を録画して、自学自習を目的とした学生の利用に供している。また、オンライン授業の評価については、前期終了時に学生アンケートを実施し、満足度、学習環境、講義・実習の区分、GPA等の相関関係を分析し、専門分野(コース)ごとの会議で改善方策を検討している。また、オンライン授業に関するFD研修も実施し、これらの取組を通じて、学生がより快適に学べるよう更なる教育改善を実施している。

I-1-(2)-⑤ (小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「国際基準適応実習施設の増加」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 国際基準適応実習施設の増加

国際安全衛生教育の重要性に鑑み、大学内に国際基準適応の実習施設群を構築するため、第2期中期目標期間終了時点において国際規格取得施設が1施設のみであったものを、第3期中期目標期間の4年間で5施設に増加させている。本実習施設群において、企業等の国際標準規格の取得・維持に対応できる人材育成を図っている。(中期計画 I-1-(2)-⑤-2)

I-1-(2)-⑥ (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

I-1-(3) 学生への支援に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

I-1-(3)-⑦ (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 図書館のアクティブ・ラーニング機能の強化

図書館のアクティブ・ラーニング機能を抜本的に改善するため、平成30年度に附属図書館機能改善工事に着手し、令和元年度に完了している。図書館利用者は改修工事着手前 (平成29年度) よりも6.5%増の2,489名増加するとともに、アカデミックスキル向上のための教育コンテンツを充実させている。(中期計画 I-1-(3)-⑦-3)

I-1-(4) 入学者選抜に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

（理由） 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

I-1-(4)-⑧（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 入学者辞退率の改善

平成31年度入学者選抜試験後期日程の個別学力検査において、アドミッション・ポリシーにより合致した学生を受け入れるために、センター試験の成績と調査書の内容を総合して選抜する従来の方法から、新たに小論文及び面接を加えて総合的に評価する方法に変更して実施している。その結果、当該試験日程畜産科学課程の入学者辞退率が、平成30年度の52.5%から平成31年度の8%に改善されている。（中期計画I-1-(4)-⑧）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標をおおむね達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

I-2-(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

I-2-(1)-⑨(小項目)

【判定】 中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「原虫病研究センターにおける共同利用の促進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 国際共著率の増加

大学全体の国際共著率は、平成21年から平成25年の37.5%から平成28年度は47.4%と増加し、さらに平成31年度は50.0%と計画を上回って達成している。また、国立大学法人全体の国際共著率は平成31年度は32.1%であり、平均を大きく上回る状況を維持している。(中期計画 I-2-(1)-⑨-1)

○ 原虫病研究センターにおける共同利用の促進

原虫病研究センターにおいて、新たな共同利用・共同研究拠点事業として、「マダニバイオバンク整備とベクターバイオロジーの新展開」を推進し、平成31年度までに共同研究を17件採択するとともに毎年度国際シンポジウムを開催し、3年間で約150名の参加者があった。本プロジェクトでは、マダニの識別・繁殖・供給システムから遺伝子情報までを網羅した日本初のマダニバンクの整備を進めており、実験室順化に成功したマダニは国内外の研究機関等において様々な試験研究モデルとして活用されている。(中期計画I-2-(1)-⑨-2)

I-2-(1)-⑩ (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 産学連携センター入居企業の増加

産学連携センター（旧地域連携推進センター）の入居企業を着実に増加させるとともに、同センターの共同研究・受託研究件数増加に向けた取組により、同件数は平成28年度の104件から平成30年度に175件（約1.7倍の増加）に達している。（中期計画 I-2-(1)-⑩）

I-2-(2) 研究実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】中期目標をおおむね達成している

(理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を達成している」、1項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

I-2-(2)-⑪ (小項目)

【判定】中期目標を十分に達成しているとはいえない

(理由) 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。また、「若手教員の採用比率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ コーネル大学及びウィスコンシン大学との国際共同研究の推進

コーネル大学及びウィスコンシン大学との間で、平成28年度から令和元年度の4年間で35件の国際共同研究を実施し、27本の国際共著論文を発表している。令和2年度以降は、新たな共同研究を開始するためのスタートアップ経費を支援するプログラムの整備、オンラインを活用したセミナーの実施等の共同研究の活性化に取り組んでいる。これらにより、令和2、3年度には28本の国際共著論文を発表し、第3期中期目標期間全体で55本の国際共著論文を発表している。（中期計画I-2-(2)-⑪-1）

05 帯広畜産大学

(改善を要する点)

○ 若手教員の採用比率の状況

40歳未満の若手教員の採用比率を年平均60%以上とする目標について、53.49% (23名/43名) となっており、目標を達成していない。(中期計画I-2-(2)-⑪-2)

○ 女性教員の比率の状況

女性教員の比率を15%以上にするという目標について、平成28年度12.1%、平成29年度14%、平成30年度12.9%、令和元年度13.8%、令和2年度14.8%、令和3年度14.2% となっており、一定程度の進捗は見られるものの、目標を達成していない。(中期計画 I-2-(2)-⑪-3)

I-2-(2)-⑫ (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 若手研究者に対する研究支援の強化

若手研究者を対象とした様々な経済的支援策や外部資金獲得のためのスキル向上支援策を充実させて、若手研究者が研究に取り組みやすい環境を整備している。外部資金獲得のためのスキル向上支援制度を活用した申請者の半数以上が採択されるなど、大学全体においても外部資金申請数及び採択率が第2期中期目標期間と比較して増加している。(中期計画 I-2-(2)-⑫-2)

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

I-3-⑬(小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「リカレント教育の拡充」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ リカレント教育の拡充

「フードバレーとから人材育成事業」、「生産獣医療技術研修」、「牛人工授精師技術研修」のリカレント教育事業に加えて、第3期中期目標期間に新たに「HACCPシステム構築研修」、「農業共生圏高度専門家人材育成事業」、「酪農後継者技術研修プログラム」、「馬生産プログラム」の4件を実施し、リカレント教育事業を第2期中期目標期間の3件から7件に拡充している。(中期計画 I-3-⑬-1)

○ 学生と市民の交流促進

学生と市民の交流を促進するために「リベラルアーツ講演会」を市民に開放するとともに、帯広市との連携による「若者がけん引するしごとづくり・まちづくりプラン推進事業」や「学生と地域がつながるまちづくり支援事業」を継続し、学生主体による地域創生事業に取り組んでいる。なお、馬介在活動室による「人と馬の絆による教育・研究・社会貢献活動」が、教育・研究活動を通じた障がい者への生涯学習支援活動と認められ、平成30年度文部科学大臣表彰を受賞している。(中期計画I-3-⑬-3)

(特色ある点)

○ 新型コロナウイルス感染症に係る社会貢献

新型コロナウイルス感染症が顕在化して間もない令和2年4月に経済産業省の要請により、独立行政法人製品評価技術基盤機構から「次亜塩素酸水の効果」についての研究協力依頼を受け、獣医学におけるウイルス学を専門とする教員が効果の分析を行っている。この結果については、同機構のホームページなどで科学的な根拠とともに公開されている。

(Ⅳ) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「中期目標を上回る成果が得られている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

I-4-(1) グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

I-4-(1)-⑭(小項目)

【判定】 中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「原虫病研究センターによる国際貢献」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 獣医学と農畜産学の融合

世界トップクラス大学との教育研究活動を担当するグローバルアグロメディシン研究センターに重点的に教員を結集させたことによって、獣医学分野と農畜産学分野を融合した教育研究体制を強化するとともに、国際共同研究を推進することで、大学全体の国際共著率の向上を図っている。(中期計画 I-4-(1)-⑭-1)

○ 原虫病研究センターによる国際貢献

原虫病研究センターは、世界の約170か国が加盟して動物衛生の向上等を目指す政府間機関である国際獣疫事務局(OIE)のコラボレイティングセンターとして、国際疫学調査、検査・診断を実施し、診断用スライドを海外に提供し、平成31年度は国際疫学調査24回、検査・診断572件、診断用スライド提供数1,750枚を実施している。また、平成30年度にOIEの依頼を受け、媾疫検査マニュアルを改定している。(中期計画 I-4-(1)-⑭-2)

(特色ある点)

○ 地球規模課題に対する国際協力

我が国唯一の国立農学系単科大学として、食料・環境・感染症等の地球規模課題の解決に貢献するため、国際協力機構（JICA）との連携により国際協力を資する人材育成及び開発途上国に対する支援を充実させている。また、第3期中期目標期間において新たに海外拠点を2か所設置するとともに、海外大学との学術交流協定を4件締結するなど、大学のグローバル化を図っている。(中期計画 I-4-(1)-⑭-3)

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標
①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化
【評定】 中期目標を達成している
(理由) 中期計画の記載10事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された計画（3事項）についてはプロセスや内容等も評価

＜特記すべき点＞
(優れた点)
○ 年俸制の全教員への適用
「令和元年度までに全教員を年俸制に移行する」という目標を早期に達成している。その上で、業績を適切に給与に反映するため、大学独自の教員評価システムである多元的業績評価（教育、研究、社会貢献、産学連携、国際貢献、大学運営の実績を数値化）及び競争的資金獲得額に応じたインセンティブの導入等により、教員評価を実施している。
○ 国際通用力を持つ人材の育成
北海道大学との共同獣医学課程においては、欧州獣医学教育認証を取得し、欧米水準での獣医学教育を実施している。加えて、獣医学分野では岐阜大学、農学分野では岩手大学との連合大学院を解消し、コーネル大学・ウィスコンシン大学との教育研究交流を活用し、獣医学分野と農畜産学分野を融合した大学独自の大学院を新たに設置している。獣医・農畜産融合の視点と世界動向・国際基準を踏まえた教育研究体制により、農学の幅広い知識・技術と国際通用力を持つ高度人材育成を推進している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載6事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 資産の有効活用

稲田宿舎の廃止に伴う土地を教育研究活動を推進する企業集積地として整備し、上川大雪酒造(株)との連携協定に基づき、全国初の大学キャンパス内への日本酒蔵を設置している。酒蔵では、現場レベルでの実践的な教育の実施や酵母・発酵に関する共同研究、杜氏による講義・実習等新たな教育研究活動に有効活用するほか、土地貸付料として毎年150万円の収益を確保している。

○ 大学の特徴を生かした自己収入の増加

畜産フィールド科学センターにおいて、搾乳施設の改修や食品衛生管理の国際水準(HACCP)に基づいた衛生管理の徹底、広報活動の促進等により、牛乳やアイス等の農畜産物売払収入が増加するなど、大学の特徴を生かした教育研究成果を社会に還元することで、業務の向上に資する自己収入を獲得している。3つのセンター合計(畜産フィールド科学センターにおける農畜産物売払収入、動物医療センターにおける診療収入、動物・検査診断センターにおける検査料収入)で、令和3年度は、平成27年度に比して5.9%増となる1億6,448万円の収入を得ている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載3事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載6事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。